

2. かつしか観光に対する区民の意識

以下では、区民および区内の民間事業者に対する調査の結果から、観光行動の実態や観光振興に対する意識を把握します（参考：「葛飾区観光基礎調査報告書」平成 17 年度）。

（１）区民の観光の実態とかつしか観光に対する意識

多くの区民が区内観光を楽しんでいる

余暇時間の過ごし方としては、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など」「飲食・ショッピング」「趣味・娯楽」「家族との団らん」「何もしないでのんびりする」が上位に挙げられています。観光に行く目的としては、「温泉・保養」が最も多く、次いで「自然観賞」「伝統文化や名所・旧跡の見学」「ショッピング・飲食」となっています。

最近 1 年間に区内観光（区内において、日常生活を離れて楽しむ行動）を行ったかどうかについては、「行った」区民の割合が約半数（48.3%）となっており、多くの区民が葛飾区内で観光を楽しんでいるといえます。

葛飾区の観光といえば「柴又」を思い浮かべる区民が多い

区民が葛飾区の観光名所として思い浮かべるのは、「柴又」「水元公園」「堀切菖蒲園」となっています。「最近 1 年間に区内観光を行った区民」が訪れたことのある観光スポットとしても「柴又」が最も多くなっています。

また、葛飾区の観光の魅力としては、「寅さん・両さんなどのキャラクター」が最も多く挙げられており、区民も「柴又＝葛飾区の観光」というイメージを強く持っています。次いで「景色」「動植物」が多くなっています。

区内移動を容易にする等、来訪者を迎える環境整備が求められている

「不便である」と指摘されている点として最も多かったのは「区内の移動が不便」であり、次いで「トイレが少ない」「観光情報を入手できるところが少ない」「案内表示が少ない・わかりにくい」「観光情報を事前に収集しにくい」となっています。

来訪客の誘致策として「イベントの開催」「観光ルートの設定」が求められている

誘客のために重要なこととして、「イベントの開催・充実」と「新しい観光ルートの設定」が多く挙げられ、次いで「区内を巡るツアーの実施」「情報発信の充実」「寅さん・両さんなどのキャラクターの活用」となっています。年齢別にみると、若年層において「イベントの開催・充実」の割合が高く、また、観光事業への参加意向のある区民（全体の16.3%）の多くが「イベントスタッフなどとして、限定した形で参加してみたい（している）」と回答しています。



(2) 区内民間事業者のかつしか観光に対する意識

「葛飾区観光協会」と「葛飾区」に対して中心的な役割を期待する声が多い

葛飾区の観光振興に中心的に取り組む主体としては「葛飾区観光協会」、次いで「葛飾区」が多く挙げられています。「区民」が主体となって取り組むという回答は、全体として多くはありません(3.5%)。

観光関連事業の展開に意欲のある事業者は約6割強である

積極的に観光関連事業を展開したいと考えている事業者は、全体の約6割強となっています。最も多いのは、「観光案内所や文化施設をはじめとする観光関連施設の整備・運営」であり、次いで「お祭り、各種イベント等の開催・運営」となっています。